

「先生が忙しすぎる」をあきらめない 学校改善とチーム力を推進する



2021年8月30日

妹尾 昌俊

教育研究家
合同会社ライフ&ワーク 代表
NPO法人まちと学校のみらい 理事
senoom879@gmail.com
<https://senoom.jimdofree.com/>

参加されるみなさまへ



- このたびはお声がけいただき、ありがとうございます。
新型コロナの影響でオンライン開催(または動画視聴)という
かたちとなりました。
- ぼくの講演、研修は、一方通行的ではなく、なるべくみなさんとともに考えて、対話などする時間
も大切にしています。対面のときより双方向性高くやるのは難しさもありますが、ときどき(動画
視聴のかたは一時停止して)、少しご自身の考えやアイデアをメモしていただくことをオススメし
ます。
- 正解は1つとはかぎらないし、なにが正解か分らない。まさにそんな日々を送っているのではない
でしょうか。この研修もそういう性格のものになりますし、妹尾の解説にはない視点や考え方も
歓迎です。ぜひ多面的で、複眼的なものの見方を大切にいただければ、と思います。
- この研修、講演は「それなりに参考になる話が聞けたな」という程度で終わることをねらっており
ません。ぜひ何か小さなことからでも、みなさんの行動、活動につながればと願っています。

自己紹介 妹尾 昌俊



- 徳島県出身(いなかの公立小中高で育つ)、神奈川県在住。
趣味は歴史もの(戦国うんちく、旅、ゲーム)、サイクリング、海でSUP。
- 小学生～高校生+0歳児の5人の子育て中～。
- 全国各地の教育現場を訪問して、講演・研修、取材を行っています。
校長、教育長等のご相談にのったりもしています。
- 京都大学大学院(行政学)修了後、野村総合研究所を経て、2016年から独立。
2019年から法人化し、ライフ&ワークを設立。
- 中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、
スポーツ庁と文化庁で部活動ガイドライン検討会議委員、
教育委員会のアドバイザー(横浜市、四日市市、埼玉県、宮崎県など多数)
岐阜市公教育検討会議委員、長野県学校における働き方改革専門家等による
検討会議委員などを歴任。
- Facebook、Twitter、Yahoo!ニュースオーサー(解説記事を書いています)は
妹尾昌俊で検索。お気軽に感想、メッセージなどお願いします。

【妹尾の著書の紹介】本を読むのも、書くのも好きです！



ぼくの原点。
元気な学校は何が
ちがうのか。



ビジョンは思った以上に浸透して
いない。
学校の戦略づくりとコミュニケー
ションを考える。



ケースメソッド方式で
モチベーションや業務改善につ
いて、とても具体的に考えられる
一冊。



わくわくする学校事務に挑戦
する6人のプロたちの仕事へ
の姿勢や仕事術を分析。事務
職員の学校運営への参画を
具体的に考えていける本。



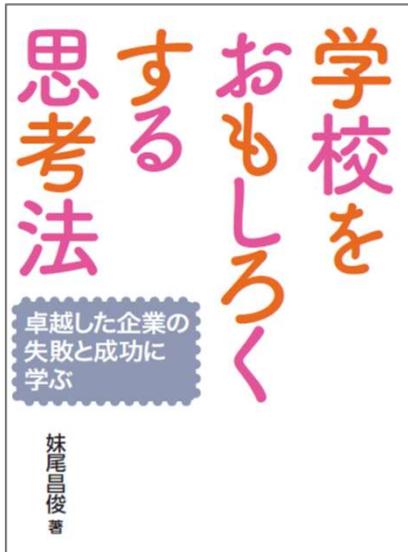
多忙の実態を豊富なデ
ータで解説。
働き方改革の基本方針
と具体策を提案。



働き方改革の教科書。
学校や教育委員会が行
うべきこと、中教審答申
とその前後の最新動向
を踏まえて解説。

典型的なマズイ事例に
陥らないために、どうす
るか、5大原則を演習問
題付きで解説。

本、増えました！

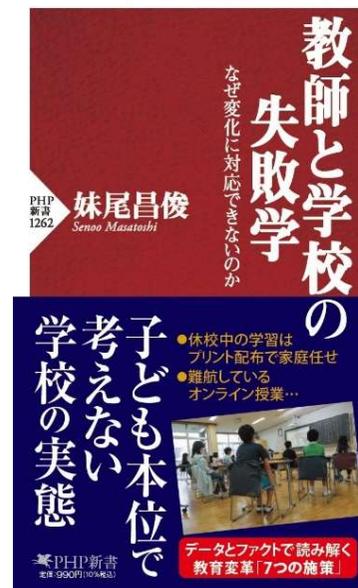


企業や行政、インベーターたちの失敗と成功から、学校や教育行政は何を学べるか。Google、セブンイレブン、スタバ、佐賀県庁など様々な事例を分析。



教師不足、過重労働、社会からの信頼低下など、5つの危機、ティーチャーズ・クライシスを解説。

採用倍率低下は本当に問題なのかなど、データをもとに深層に迫る。



コロナ危機下での学校運営と教育政策の重要課題とその背景を分析。

休校中の対応、夏休み短縮、時数確保の重視などが子ども本位で進められてきたかを検証し、今後に向けたビジョンを示す。

ある教諭の言葉

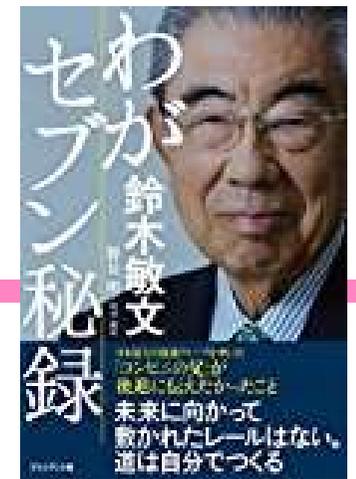
業務改善したいのですが、管理職に提案しても
「それは難しい」、「これまでの経緯、伝統がある」
「他校はやってないし」など言われました。
「うちの学校ではムリだな」とあきらめています。

セブン-イレブン

- Q1 全国のセブンイレブンの店舗数はどのくらい？
- Q2 コンビニのおにぎり、お弁当、おでん、ATM
これらに共通することとは？

セブン-イレブン

鈴木敏文・勝見明(2016)『わがセブン秘録』プレジデント社



- わたしとしてはその都度、そんなに難しいことを考えて、発案したり、考案したわけではありません。
- 新しいものを生み出すといっても、それは何かを創造するというより、**世の中にすでにある多くのもののなかから何かを見出し、結びつけてみようという発想**をしてきました。
- おでんは1970～80年代のころは、まだ夕方になると街角に屋台がくり出してきて、明け方までお客が腰かけている光景をよく見かけました。それを見て、「おでんは日本人の生活から切り離すことができない食べものではないか」と考え、コンビニエンスストアと結びつけたことで、“コンビニおでん”という新しいカテゴリーが生まれました。
- セブン銀行の設立も、「24時間365日、いつでも下駄履きで近くのコンビニで小口現金を出したり入れたりできたら便利だ」と思っただけで、特に難しいことを考えたわけではありません。
- **人間は過去の延長線上で考えてしまいがちです。それは、これまでの延長線上で考えたほうが、楽だからです。**
- 昨日と同じことを今日もやり、明日もやる。しかし、楽なほうに流れたときから、市場の変化に取り残されていく。
- 「できない理由」をあげる前にもう一度問い直してほしいのは、いま、「**できない理由**」と**考えていることは本当に「できない理由」なのか**ということです。

刃を研ぐ

森の中で、必死で木を切り倒そうとしている人に出会ったとしよう。

「何をしていますか？」とあなたは聞く。

すると男は投げやりに答える。

「見ればわかるだろう。この木を切っているんだ」

「疲れているみたいですね。いつからやっているんですか？」

あなたは大声で尋ねる。

「もう五時間だ。くたくただよ。大変な仕事だ」

「それなら、少し休んで、ノコギリの刃を研いだらどうですか？」

そうすれば、もっとはかどりますよ」とあなたは助言する。

すると男ははき出すように言う。

「切るのに忙しくて、刃を研ぐ時間なんかあるもんか！」

スティーブン・R・コヴィー『完訳 7つの習慣 人格主義の回復』
(フランクリン・コヴィー・ジャパン翻訳)キングベアー出版(2013)



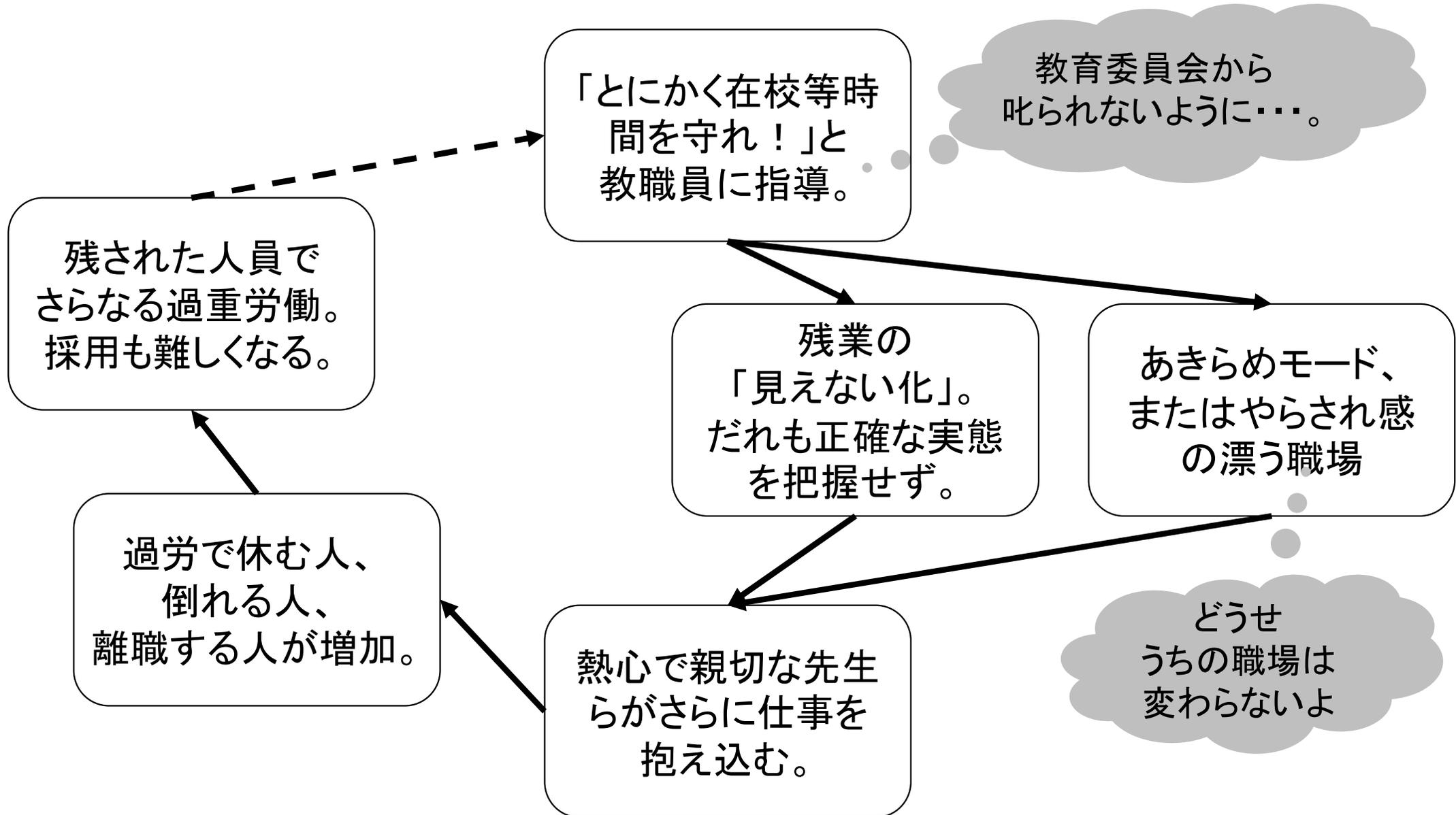
☑目の前のことをこなすだけになっていませんか？

☑その「できない理由」は本当に「できない理由」なののでしょうか？

この問いが一番大事！

学校の“働き方改革”ってなんのため？
先生がラクしたいだけでしょか？

こんな学校になっていませんか、なりかけていませんか？ 在校等時間の**上限を守ることだけが目的化**すると、変な方向に行く。



問:あなたの学校で、毎日20時、21時まで残っている
加藤先生(社会科、採用2年目)。

「部活をしたくて中学校(or 高校)教師になった」と言っていて、
土日にも練習試合などを組んでがんばっています。部員の生徒からは、熱心な先生として慕われています。

授業も若手なりに工夫はしているようですが、何人かの生徒に聞くと、覚えさせられることが多くて、いまひとつおもしろくない、とのこと。

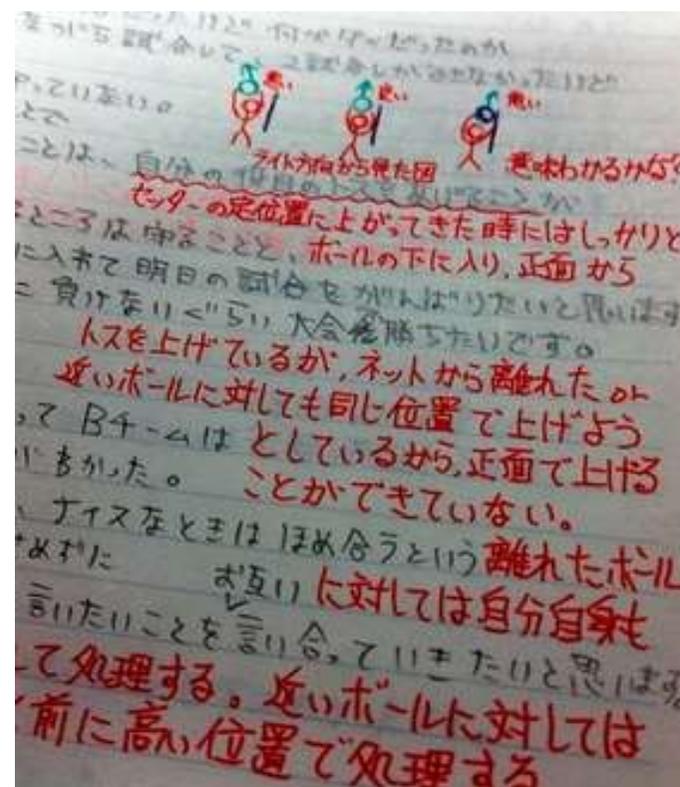
【加藤先生、いまのままでいいんでしょうか???

()教師の過労死

2011年6月6日(月)午前1時頃、堺市立中学校に勤務する26歳の教師、前田大仁さんが1人暮らしの自宅アパートで突然亡くなりました。虚血性心疾患でした。前田先生は「**熱血先生**」と慕われ、市教育委員会の教員募集ポスターのモデルにもなったこともありました。

前田先生は2年目で、2年1組のクラス担任ならびに**経験のないバレー部の顧問**を務めていました。理科の教科担当としてプリント等を作成するなど熱心に授業準備を行うとともに、**学級通信をほぼ毎週発行**するなど、教育に情熱をもってあたっていました。部活動では、部員が記入する**個人別のクラブノートに励ましや助言をびっしりコメント**していました。

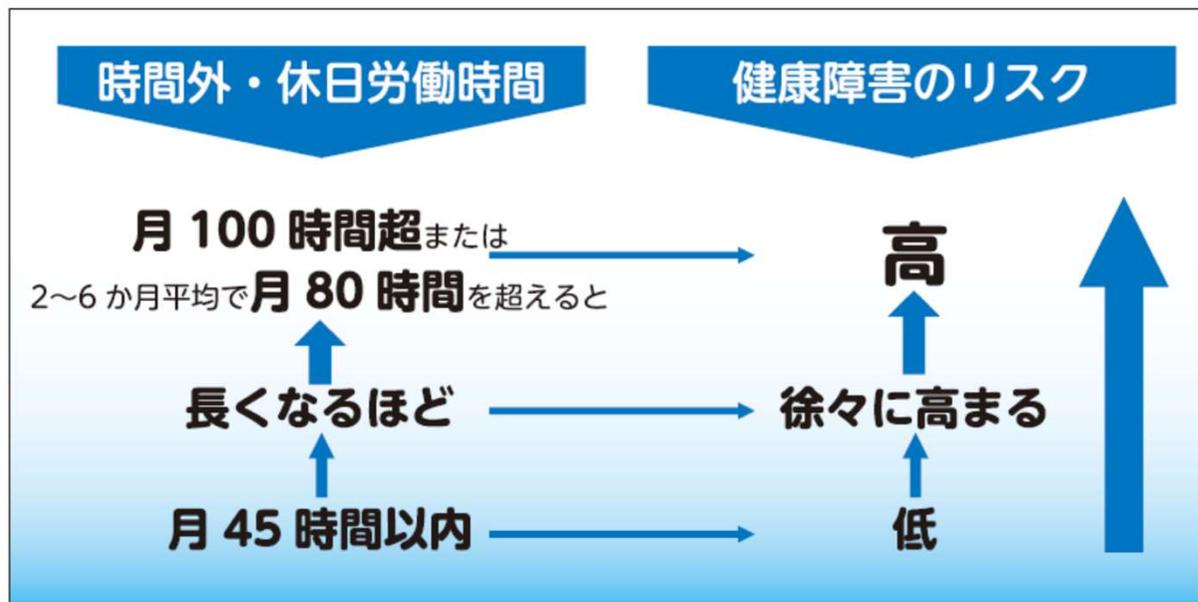
発症前6か月間の時間外勤務は月60～70時間前後と過労死認定基準に満たない時間しか認められませんでした。が、「**相当程度の自宅作業を行っていたことが推認される**」として、**地方公務員災害補償基金は2014年に公務上の過労死として認定**しました。



厚生労働省 過労死防止パンフレット

80時間を超えなければ大丈夫では、ありません！ 45時間超からリスクが高まります。

■時間外・休日労働時間と健康障害リスクの関係



①上の図は、労災補償に係る脳・心臓疾患の労災認定基準の考え方の基礎となった医学的検討結果を踏まえたものです。

②業務の過重性は、労働時間のみによって評価されるものではなく、就労態様の諸要因も含めて総合的に評価されるべきものです。

③「時間外・休日労働」とは、休憩時間を除き 1 週間当たり 40 時間を超えて労働させた場合におけるその超えた時間のことです。

④2～6 か月平均で月 80 時間を超える時間外・休日労働時間とは、過去 2 か月間、3 か月間、4 か月間、5 か月間、6 か月間のいずれかの月平均の時間外・休日労働時間が 80 時間を超えるという意味です。

【長時間労働と過労死等】
長時間にわたる過重な労働は、疲労の蓄積をもたらす最も重要な要因と考えられ、さらには脳・心臓疾患との関連性が強いという医学的知見が得られています。脳・心臓疾患に係る労災認定基準においては、週 40 時間を超える時間外・休日労働がおおむね月 45 時間を超えて長くなるほど、業務と発症との関連性が徐々に強まり、発症前 1 か月間におおむね 100 時間又は発症前 2 か月間ないし 6 か月間にわたって 1 か月当たりおおむね 80 時間を超える時間外・休日労働が認められる場合は、業務と発症との関連性が強いと評価できるとされています。

Q: どうして妹尾は学校や行政の多忙改善に取り組んでいるのか？

1. 先生たちの過労死、過労自殺、あるいは志ある方が去っていく、続けられない現実をなんとかしたいから。
2. ツレがうつになりまして。
3. 学校や子育ての場(家庭、保育所等)をもっとクリエイティブで、おもしろい場に変えたい。

What do you think?

■例題1 部活動に熱心なある中学校の先生の言葉

生徒が「もっと強くなりたい。もっと練習したい」と言っています。だから土日もがんばって練習試合を組んでいます。チームワークが高まり、引退試合などはもう感動です。生徒の成長に携わる、教師冥利につきます。これって、悪いことでしょうか？

■例題2 あるベテランの先生の言葉

児童生徒の宿題や作品に一人ずつなるべく丁寧にコメントを書いています。夜遅く(21時頃)までかかることもありますが、20年以上ずっと続けていることです。これっていけないことなんでしょうか？

過度な練習は、生徒の怪我・バーンアウトを誘発

～さようなら スポ根 こんにちは スポーツ医科学～

なぜ、もっと練習したいという生徒(+教師)がいるのに、規制をかけるのか？

1. スポーツへの参加時間が長ければ長いほど、けがや障害になる確率は高くなることが、実証されている。
 - 週16時間以上の場合、ないし“年齢×1時間”より多い場合は、けがの発生率が高いとの研究が複数ある(スポーツ庁の検討会議、2017年12月18日での報告)。体育の時間等も含む。
 2. ハードな練習では、参加しづらい生徒や途中でやめる生徒もいるし、中高やりすぎて、その後はやめてしまう子も多い。生涯にわたってスポーツに親しめる機会をつくる価値も重視していく必要がある。
 3. 「長くやればやるほどうまくなる」という考えは教員にも、生徒にも、保護者にも強いが、それはスポーツ科学の知見からは否定されている。
 4. 子どもの学習時間や友達や家族との時間、自由な時間などをもっと認めていく必要がある。
 5. 教職員の負担の問題。部活以外の時間も大切だねという話は、教師にも言える。
- ※ 2.4.5.などは文化部活動についても言える。

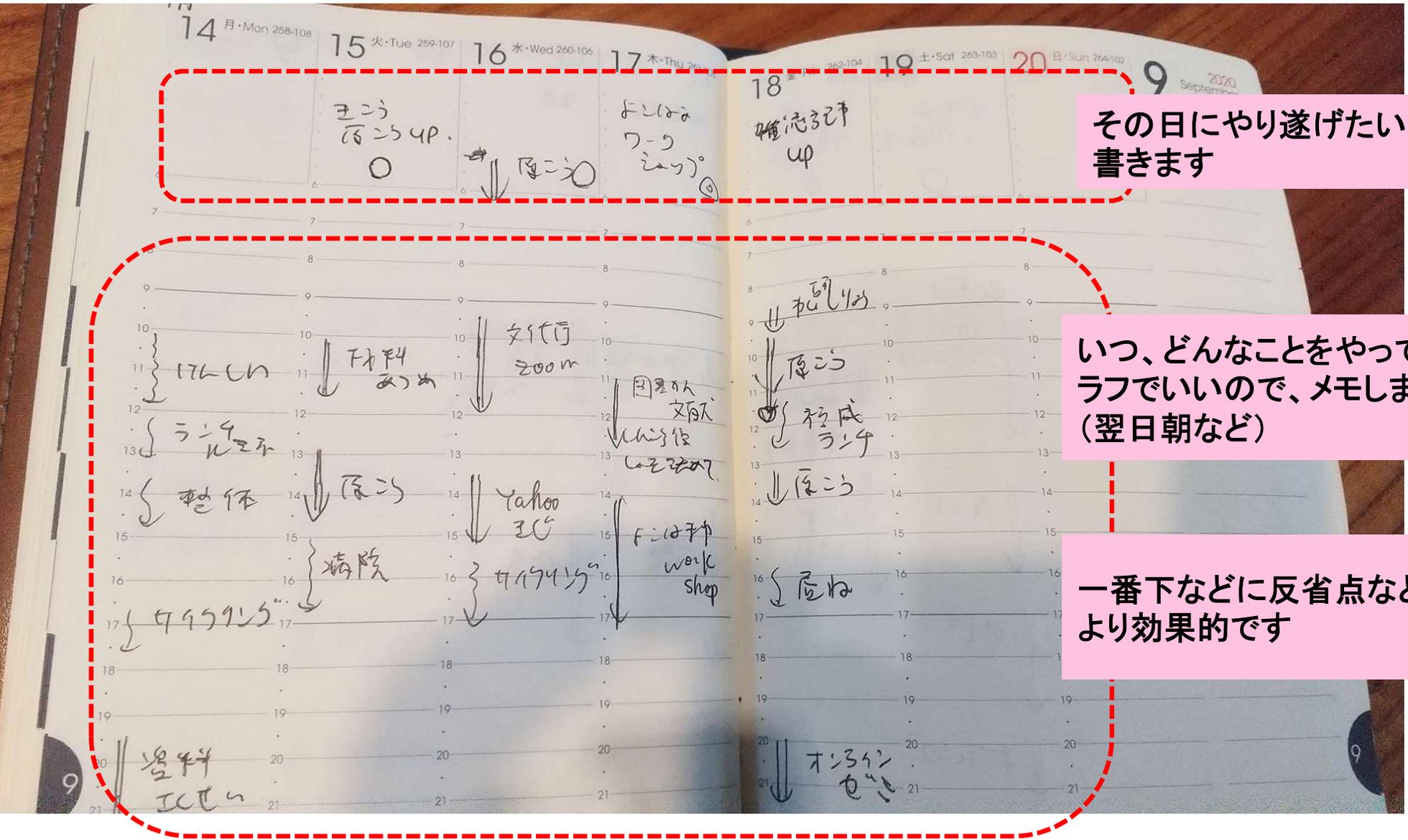
前田康裕『まんがで知る教師の学び』

何をしたかを書くのではなく、「どんなことを学んだか」を書く＋教師はチェックボックスだけ

自己評価カード 6年 組 号 氏名 ()

今日のめあて		写真をもとにスピーチするための原こうを書く。	
項目	ABC	できるようになったこと・次がんばりたいこと	先生から
9月	やる気	A	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input checked="" type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
29日	話す・聞く		
(金)	考える	B	
今日のめあて		写真を元にしてプレゼンテーションを行い、どんな味か試みる。	
項目	ABC	できるようになったこと・次がんばりたいこと	先生から
10月	やる気	A	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
2日	話す・聞く	A	
(A)	考える	B	
今日のめあて		学校の回りをユニバーサルデザインの視点で見回す。	
項目	ABC	できるようになったこと・次がんばりたいこと	先生から
10月	やる気	A	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
3日	話す・聞く		
(火)	考える	A	
今日のめあて		提案のストーリーを考えよう。	
項目	ABC	できるようになったこと・次がんばりたいこと	先生から
10月	やる気	A	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input checked="" type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
4日	話す・聞く	A	
(水)	考える	B	

(参考)妹尾も簡易なワークログをとって、振り返りをしています。



その日にやり遂げたいことを1つ書きます

いつ、どんなことをやっていたか、ラフでいいので、メモします(翌日朝など)

一番下などに反省点などを書くとより効果的です

人は3つのことから学ぶ(出口治明氏)。

知的生産術

立命館大学経済学部長 出口治明
Masaki Deguchi

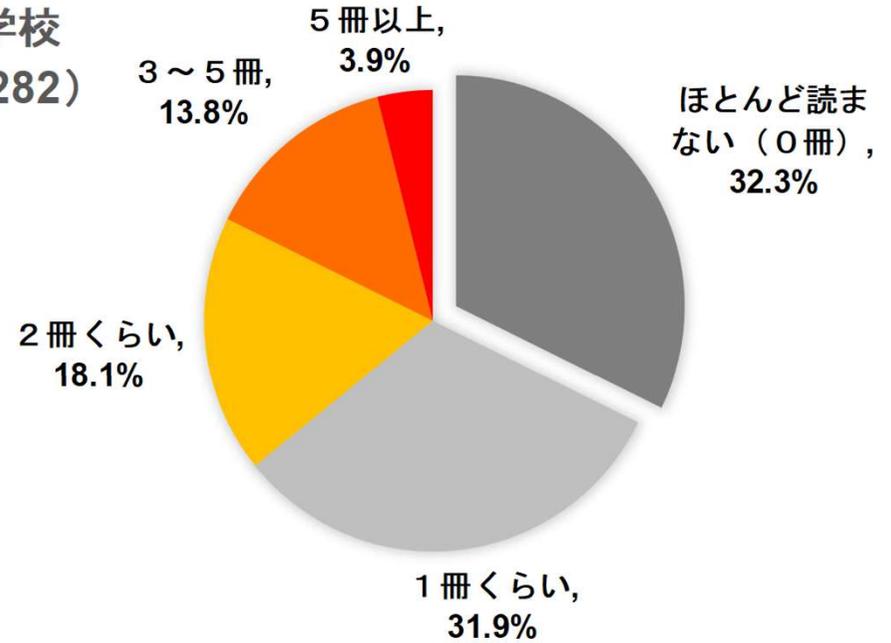
これからは、
「自分の頭」で
考えられる人の時代

誰でも「短時間」で
成果を出せる!

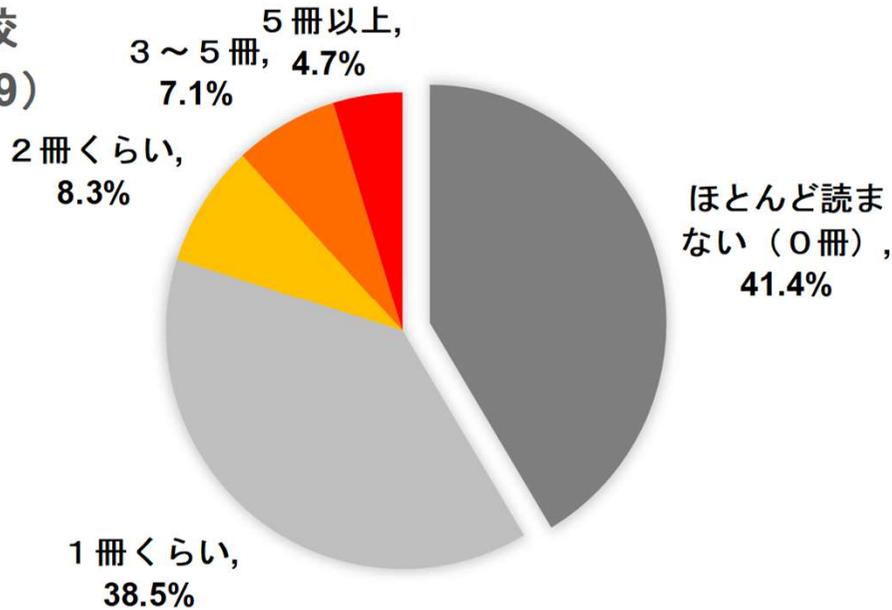


1カ月の読書量 ※漫画、小説などは除く
約3～4割の先生が、1冊も本を読まない。
二極化現象も。

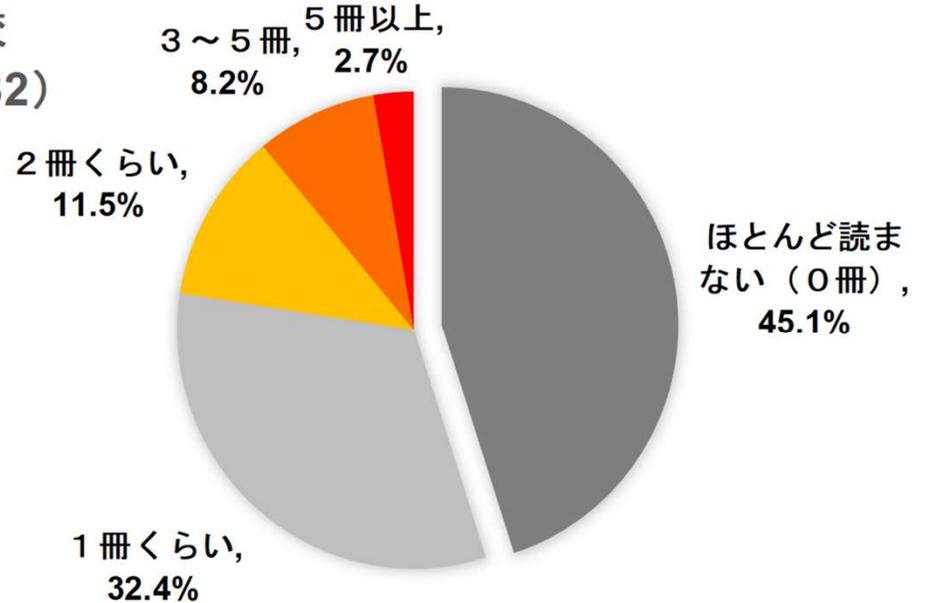
小学校
(N=282)



中学校
(N=169)



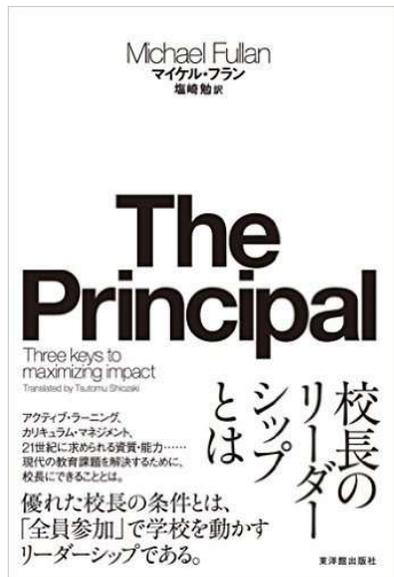
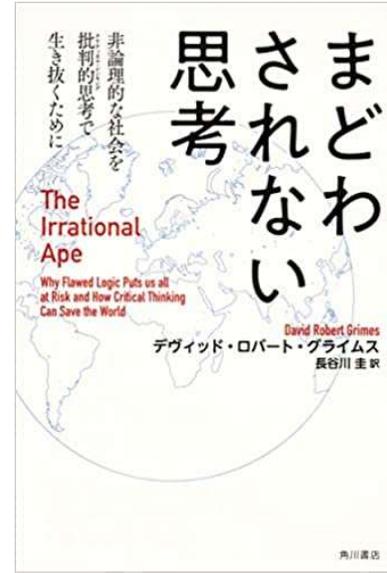
高校
(N=182)



注)対象は教員のみ。

出所)妹尾昌俊『教師崩壊』、「教職員の学びと勤務についての調査」(2019年12月～20年1月実施)

かなりおススメ本



長時間労働の影響（忙しい毎日を**放置しておけない理由**）

大きなところでは3点

1. **教師の健康**への影響

- 教師の過労死が相次いでいる。
- 精神疾患患者も毎年約5千人。

2. **教育**への影響（**児童生徒への影響**）

- 心身が疲弊してよい授業にはならない。
- AI(人工知能)等が便利になる時代、教師がクリエイティブに深く思考する時間がなくては、子供たちの思考力や創造性が高まる教育活動にならない。

3. **人材獲得**への影響

- “ブラック”な職場のままでは優秀な人材は来ない。
- 既に人材獲得競争の時代。

中教審(中央教育審議会) 学校における働き方改革 答申

‘子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする’という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で**教師が疲弊していくのであれば、それは‘子供のため’にはならない。**

教師のこれまでの働き方を見直し、教師が我が国の学校教育の蓄積と向かい合って**自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることが学校における働き方改革の目的であり、そのことを常に原点としながら改革を進めていく必要がある。**

<あなたなら、どうする？>

★学校の活動や業務について、ちょっとストレスや違和感があるものについて、仕分けをしてみよう。

①やめる

②減らす、時短する

③やり方を変えるなどして、質を上げる

★でも、けっこう前から分かっていたことだよね。
上記のアイデアをどうすれば、
前進、実現できるだろうか？

各地にさまざまな事例、工夫はあります。文科省・学校における働き方改革事例集

全国の学校における働き方改革事例集

取組一覧

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。

学習指導

1.教材研究や作成

教材の共有	削減時間 21.5時間	週案や学校日誌のデジタル化	削減時間 14.3時間	週案・指導案の簡素化	削減時間 14.3時間
-------	-------------	---------------	-------------	------------	-------------

3.宿題やノート点検

自主的な家庭学習への転換	削減時間 66.7時間	家庭学習のやり方の見直し	削減時間 66.7時間	家庭学習のオンライン提出	削減時間 33.3時間
--------------	-------------	--------------	-------------	--------------	-------------

4.授業で使用するプリント印刷

紙ではなくデータで児童生徒へ配布	削減時間 43.0時間	PCから直接印刷	削減時間 43.0時間	掲示の精選	削減時間 21.5時間	学級日誌の見直し	削減時間 16.7時間
------------------	-------------	----------	-------------	-------	-------------	----------	-------------

学習評価

1.テスト作成・採点

採点業務の外部サポート・分担	削減時間 107.5時間	採点システムの導入	削減時間 25.0時間	小テストの採点の自動化	削減時間 21.5時間	定期考査の見直し	削減時間 20.0時間
名簿への転記見直し	削減時間 10.8時間	小テスト中に採点	削減時間 10.8時間	採点期間の確保	>		

2.通知表の作成・点検

所見の見直し	削減時間 30.0時間	前期や1.2学期の所見の見直し	削減時間 20.0時間	二期制の採用	削減時間 15.0時間
押印欄の廃止	削減時間 1.5時間	家庭からの回収無し	削減時間 0.5時間		

生徒指導

1.給食指導

担任外による給食指導	削減時間 50.0時間	自動手搾消毒器の導入	削減時間 16.7時間	制服の見直し	>	生徒の様子を日常的に共有	>
------------	-------------	------------	-------------	--------	---	--------------	---

進路指導

1.進路希望調査・進路先データの収集

データ収集のWebアンケート化	削減時間 3.0時間	メールの活用	削減時間 10.8時間	個別進路相談会の外部委託	削減時間 3.0時間	オンライン会議での実施	削減時間 1.0時間
-----------------	------------	--------	-------------	--------------	------------	-------------	------------

2.大学とのやりとり

3.進学の事前指導・事後指導

全国の学校における働き方改革事例集

取組一覧

特別活動

1.クラブ・委員会活動

クラブ・委員会の再編成	削減時間 10.8時間	生徒とのやりとりのオンライン化	削減時間 10.8時間	クラブ決定方法の変更	削減時間 1.0時間	見直し	削減時間 4.0時間
-------------	-------------	-----------------	-------------	------------	------------	-----	------------

3.運動会・体育祭

練習は無しor授業に収める	削減時間 16.0時間	午前実施に短縮	削減時間 8.0時間	学年ごと30分に短縮	削減時間 8.0時間	学年行事・授業参観への転換	削減時間 8.0時間
競技種目の精選	削減時間 8.0時間	表現・演技種目の精選	削減時間 8.0時間	保護者種目の精選	削減時間 5.0時間		

4.学芸会・学習発表会

学習発表会の精選	削減時間 23.0時間	日々の授業の成果を発信する場へ転換	削減時間 8.0時間	オンライン会議での実施	削減時間 5.5時間	放送・動画配信での実施	削減時間 5.5時間
----------	-------------	-------------------	------------	-------------	------------	-------------	------------

6.式典

写真選定の自動化	削減時間 10.0時間	式典の同日実施	削減時間 6.0時間	文集の見直し	削減時間 5.0時間
----------	-------------	---------	------------	--------	------------

部活動

1.部活動

部活動の精選	削減時間 129.0時間	休日の活動をはじめとした地域への移行	削減時間 129.0時間	活動内容の精選	削減時間 86.0時間	休養日の設定	削減時間 86.0時間
活動時間の短縮	削減時間 50.0時間	合同練習の実施	削減時間 43.0時間	顧問の複数・シフト制	削減時間 43.0時間	朝練の見直し	削減時間 21.5時間

ガイドラインの徹底 >

校外での活動

1.校外学習

学年単位での実施	削減時間 15.0時間	しおりの見直し	削減時間 5.0時間
----------	-------------	---------	------------

2.作品展

実施・参加する作品展などの精選	削減時間 10.0時間	土日に教職員が参加する地域行事の見直し	削減時間 10.0時間
-----------------	-------------	---------------------	-------------

3.地域行事



鴨方東小学校の働き方改革の3領域

～生産性を高め、教育の質の向上を図る～

※鴨方東小学校資料より

業務改善

- ☆業務内容の棚卸し
- ☆コミュニティ・スクールの設置
- ☆校務分掌の新体制化等

意識改革

時間外勤務
25%減

時間改善

- ☆時間管理のカエル5
- ☆職員会議・終礼改善
- ☆勤務時間の記録等

環境改善

- ☆職員室の機能的なレイアウト
- ☆人間関係・同僚性の構築等

①業務内容の棚卸し (何をやって 何をやらないか)

・教職員、保護者 (PTA)、地域住民で、「どんな学校にしたいか」「どんな子供を育てたいのか」を熟議。そこで**業務の仕分け方針を共通理解**し、できるものから業務の廃止・簡略化に着手。

教職員・PTA役員・地域住民で熟議
→ **仕分けの方針を共通理解!**

②コミュニティ・スクール (学校運営協議会) の設置、地域学校協働活動による地域との連携

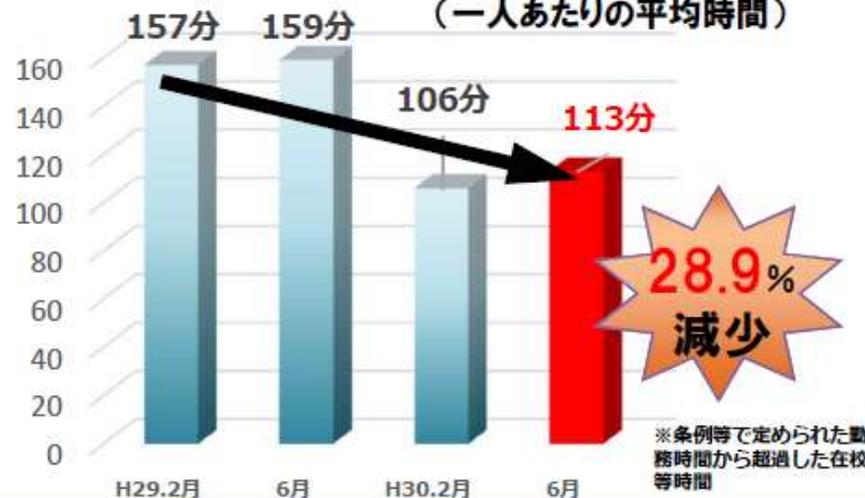


・育てたい子どもの姿や学校・家庭・地域の課題を共有し、学校が担ってきた負担や役割等を見直したうえで、地域学校協働活動を展開。**教職員と地域住民の共通理解のもと活動を展開することで、業務の効率化や教育の質が向上**

育てたい子どもの姿や学校・家庭・地域の課題を共有したうえで学校の多様な業務の棚卸しに取り組むとともに、それぞれが取り組むことについて役割分担を見直すことにより、「働き方改革」につながり、教員の業務時間の削減を達成。

一日あたりの超過勤務時間*の推移

(一人あたりの平均時間)



教職員へのアンケート結果

項目	%
1 退校時刻面で効果があった	88.8
2 働き方に関する意識が変わった	88.8
3 タイムマネジメント面で効果があった	86.3
4 生活習慣が改善された	82.5
5 業務や会議が減った	81.3
6 授業準備・学力向上に関わる時間が増えた	77.5
7 精神的にゆとりができた	72.5
8 児童と向き合う時間が増えた	67.5

思いつくけど、3つの場がない

あなたが一人で立ち向かう必要はないかもしれない。

Q: “チーム”と“グループ”ってなにがちがいますか？

学校現場では、目先の「大変なこと」に対処し、子どものことだけに向き合っていれば良いとする職場風土になってしまっていると考えられる。コンプライアンスやハラスメントに関する研修や学びを前向きに捉える雰囲気を作ることが課題である。

ある先生の声

「学校行事をやめる？

部活動数を数年内に2割減らす？

子どものためになることを削るのが、
働き方改革なんですか？」

教育効果ばかり見ていていいのか？

■温泉理論     

■時間対効果

働き方を見直すポイント

- Why 働き方改革？ここに納得感が高まらないと、何も始まらない。
- 多忙の内訳（要因、背景）を見よ。診断ないところに改善なし。
- 個人で工夫したり、段取りを見直したりできる余地はあるが（タイムマネジメントなど）、個人だけのせいにはいけない。
丁寧なケアが必要な子がいる、校務分掌上の業務が多い、部活動の指導がたいへん・・・などは、組織的な問題である。
- 教育活動の根もとから振り返る場を大切に。（そもそもなんのためだっけ？本当に生徒のためになっているの？）率直に意見を述べてお互いを高められる職場に。

妹尾の活動など詳しい紹介はこちら

<https://senoom.jimdofree.com/>

妹尾昌俊 元気な学校づくり



Masatoshi Senoo Life & Work

ホーム お問い合わせ

プロフィール 著書紹介 講演・研修について 研修動画 ニュース解説

妹尾 昌俊 ライフ&ワーク代表
元気な学校づくりラボ

元気な学校と地域づくり

妹尾昌俊（せのおまさとし）のウェブサイトによるごそ！

日本中に元気な学校と地域を増やすため、
すぐれた実践をわかりやすく翻訳し、
先生や関係者がとちに学び、成長できる場をつくることを
志（マイミッション）として日々活動しています。



主な著書紹介

今まで執筆した書籍の紹介です。
主な著書に『変わる学校、変わらない学校』、『教師の思考法』、『学校をおもしろく』



講演・研修について

日本中に元気な学校と地域を増やすために、講演、研修、取材、アドバイス等で全国各地の学校、行政を訪問しています。



YAHOO!ニュース解説

Yahoo!ニュースオナーサーとして、教育問題などの最新情報をなるべくわかりやすく、定期的に解説したいと思っています。